

新潟・大武II遺跡

- 1 所在地 新潟県三島郡和島村大字島崎
- 2 調査期間 一九九九年(平11) 五月～一〇月
- 3 発掘機関 和島村教育委員会
- 4 調査担当者 丸山一昭
- 5 遺跡の種類 自然流路跡カ
- 6 遺跡の年代 一三世紀～一六世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(三条)

遺跡は村の北東部、西山丘陵に属する低丘陵の裾部にある。周辺には中世の水田祭祀が行なわれた大武遺跡が、また郷本川の対岸には南北朝時代の山城跡である奈良崎遺跡がある。郷本川は明治時代に開削された人口河川であるから、奈良崎遺跡と本遺跡とは一連のものとして推察される。また、この丘陵沿いでは製鉄関連遺跡が多く見つかっており、山田郷内遺跡では鍛冶工房

跡や呪符木簡、人面墨書石が出土している(本誌第一四号)。

近接する奈良崎遺跡は、「色部高長軍忠状案」に見える「島崎城郭」に比定され、同史料には建武三年(一三三六)、立てこもる南朝方の小木・風間・河内・池氏らを北朝方の色部氏らが攻め落城させたところ(和島村「和島村史 資料編一」(一九九七年))。本遺跡・木簡の性格を考えるうえでも重要である。

調査は県道改修に伴うもので、調査面積は約四〇〇㎡である。狭い範囲ながら出土遺物の密度は高く、珠洲などの陶磁器片、漆器、下駄、箸状木製品などが多量に出土した。遺物は主に上下二枚の包含層から出土し、下層からは(自然?)流路を中心に木簡を含む木製品が多く出土した。

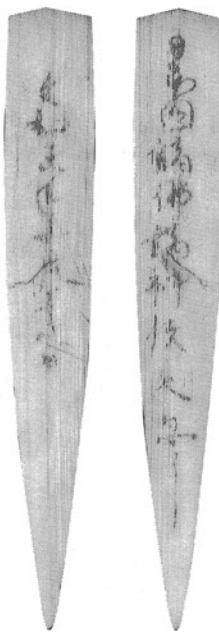
8 木簡の釈文・内容

- (1) 「符籙」鬼急々如□□□
[律令カ]
190×55×3 0.11
- (2) ・「日本国諸仏諸神悦也忽々」
・「文和三年六月十八日」
189×88×4 0.51

(1)は呪符木簡である。上端は圭頭に整形するが、下端は欠損の可能性もある。(2)は上端を圭頭にし下端を尖らせており、状態は非常に良いが裏面の墨痕は若干かすれている。頭部両側面には食い込み痕があり、何かにくりつけた可能性もある。「文和三年」(一三五



(2)



(2) 赤外線画像



(1)



(1) 赤外線画像

四)の紀年銘を持ち、内容的には諸々の神仏を祭るものである。
本木簡の釈読・赤外線写真撮影は新潟大学の小林昌三氏・同大学
院生相沢史氏にご協力いただいた。
(丸山一昭)



(新発田)

本調査は、日本道路公団の日本海沿岸東北自動車道建設に伴うものである。調査対象地は新発田市の西部に当たり、JR白新線の南東に接している。一九五二―五六年の第二期鉄道建設で砂丘を削平した際に、縄文時代や平安時代の土器など遺物が多量に出土し、現在もそれらの遺物は保管されている。

新潟・馬見坂遺跡

うまみざか

- 1 所在地 新潟県新発田市大字佐々木中ノ割
- 2 調査期間 一九九九年(平11) 五月―一〇月
- 3 発掘機関 新潟県教育委員会・財新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査担当者 土橋由理子
- 5 遺跡の種類 遺物散布地
- 6 遺跡の年代 平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要